

大空に翔る



「ジュニア陸上教室 駅伝レース風景」



大塚スポーツ少年団



山形市乗馬スポーツ少年団



宮宿ミニバスケットボールスポーツ少年団

学校も週五日制となり、いよいよ、地域活動が重要になります。スポーツ少年団のもつ理念、そして、活動にも大きな期待が寄せられています。子供達の無限の可能性を信じ、一層のご尽力をお願い申し上げます。

早くも、新世紀二年目を迎えました。各団におかれましては、ますます充実した活動をされておられる事とお慶び申し上げます。

関係者のご努力で「大空に翔ける」の第十八号が出来ましたのでお届けします。日頃の活動に資していたければ幸いです。

いま、世の中、決して明るいとはいえません。しかし、スポーツにおける各選手の見たり聞いたりすると、不思議と気持ち熱くなり、生きる勇氣と希望が湧いてきます。なかでも、若さ一杯のスポーツ少年団員達が、それぞれのスポーツに精一杯の力を出し切り、一生懸命に頑張っている姿を目にすると、いっそう感動で胸が一杯になります。どのような時にあってもスポーツの果たす役割は極めて大きく、ますますの推進を図らなければとの意を強くしています。



山形県スポーツ少年団
本部長 原田 薫

いあごさし

特集 女性指導者からのメッセージ

女子団員・指導者の加入・登録促進について

普及委員会

委員長 梁 瀬 吉 弘



少子化による児童数の減少に伴い、本県の団員加入も減少して来

ましたが、近年、加入率が横ばい傾向が出て来たことは誠に喜ばしいことです。しかし、その加入の状況は、小学生では、男子が本県の在籍児童数の四二%が加入しているのに対し、女子は二四%にすぎません。また、女性指導者は、男性指導者の登録が四、八七六名に対し女性は四七七名で、男性の約十%といった状況です。野球・サッカーといった男子型が多く、女子のやりたい種目が少ないといった事情もあるものの、男女とも加入拡大に努めながら、女子団員の確保・拡充、更に女子団員

により理解の深い女性指導者の登録・確保に一層努力することが重要であると考えます。

これまで、元気でスポーツが好き、皆と仲良くものごとに積極的

に取り組む、夢をもつ年少少女の育成に、ご尽力されて来た女性指導者の方々のご苦労とご意見をいただき、今後の本県スポーツ少年団の一層の発展に寄与したいとの総意で特集しました。

若浜バレーボール

スポーツ少年団

指導者 池 田 ミツ子



「お願います」。

午後四時、今日も体育館に元気な子供達の声

がひびいています。

今年は三年生から六年生まで十三人とさみしいスタートでしたが、

二人増えて現在十五人で練習しています。団員数が年々減少しています。

若浜スポ少バレーは、発足して二十五年になります。発足当時は、

ママさんバレーの人達が中心になって指導してました。その当時の団員数は、二十から三十人位だったと思います。現在は男性二人、女性一人の三人で指導しています。

私はマネージャー的なことに心がけて、子供達のその日の顔色を見ながら、動作の様子、風邪がみの子供、チョットしたケガをしてる子供にテーピングをしたりしながら子供達に話しかけています。また、男性指導員には話せないようなことなど、なんでも話し合うようにしています。父兄との連絡もバレーボール練習以外の子供達の様子とか学校での友達関係等、色々教えて頂いています。

若浜スポーツ少年団の指導員の内、女性の指導員は二人しかいま

せん。女性の指導員をと考えているのですが、仕事の関係、子育て、家事等と忙しく中々時間がとれないようです。家族の協力が必須だと思います。

スポ少バレーの現在の練習時間は、平日は四時から六時三十分となっています。夜間練習はなるべくしないようにと言われているので、増々女性指導者が出来にくいのではないかと思います。スポ少に入っていた子供達が、中学・高校・社会人と活躍しています。また、結婚をしてママさんバレーに入っています。大変うれしいことです。その中からスポ少の指導者になってくれる人が出てくれればと思います。

私も二十五年間、指導者として子供達に接してきました。楽しかった思い出ややかかったこといっぱいあります。続けてこれたのも家族の協力があつたからだと感じています。

若浜スポ少バレーは、平成十一年に皆さんの応援を頂いて念願の

全国大会に出場することが出来ました。もう一度、あの東京体育館へ子供達を連れていきたいと思い、今日も練習に頑張っています。

やまぼうしミニバスケ

スポーツ少年団

指導者 柴 崎 美 枝

「自分の生活にスポーツがないなんて、何て物足りない事なんだろう」そう思い始めた頃、運良くスポ少に遊びに来ないかと声を掛けられ行き始めて、気がつけばスポ少にどっぷりはまって現在まできていました。

高校の時は指導者と団員のパイプ役ともいえる「リーダー」というポジションで活動をしました。ジュニアリーダーズスクールやシニアリーダーズスクール、全国大会等、いろんな所に参加していくうち、ドイツに行ってみたいと思いはじめ、卒業してから、ドイツに行くチャ

ンスを与えていただき、この時のドイツの口々はその後の私のスポーツ活動に大きな刺激を与えるものとなり、リーダーから問もなく指導者の年になる自分なりの目標と方針が出来たのもこの頃からです。「生涯スポーツ」と「リーダー育成」今、自分が一番と力を入れているのはこの二点になります。

「生涯スポーツ」においては出来ることならスポーツから始めた種目をずっと続けてほしいのが本音ですが、中学・高校と進んでいく中で自分に合ったスポーツと出会い、そのスポーツを大人になっても楽しむ事が出来たらそれはとても幸せな事だと思えます。「生涯スポーツ」はとても奥が深い言葉ですが、私は勝敗ももちろん大切な事ですが、小学のうちにはスポーツする事は楽しいと感じてくれれば良いと思っています。

「リーダー育成」に関しては今の自分があるのはたくさん先輩の指導者の方々、団員、家族のおかげだと思っています。だからこそこれからは自分が後に続くリーダーを育てなければいけないと考えています。指導者側（大人）からの一方的な押しつけでなく、自分も団員（子供）と一緒に立場で考え、一緒に前進していければ良

いと常に思っています。そしてそれに同感してくれたらリーダーとして続けていってけると信じています。

自分の課題はまだたくさんあります。一つ一つゆつくり時間をかけクリアし、子供達と一緒に前進していきたいと思っています。

米沢体操スポーツ少年団

指導者 高木照美



私が少年団の指導を始めてから四年目になります。始めた当初は

子供達とどう接したらいいのかからず、子供達も今と違ってとても静かでした。ある日、マットに全員で横になり技の練習をしている時に、各個人の特長や性格がよく見えてきました。ほめると出来るまで練習する子、ほめても出来ない中途で練習をやめる子、最初から出来ないと言って他の事をして遊ぶ子など、さまざまなタイプの子供を見ていると、指導の仕方にもいろいろ工夫が必要だと

感じ、逆に楽しみながら指導できないのではないかと思いました。いろんな指導の仕方の子供達が上達し、自分で目標を持って練習するという事は、子供はもちろん、指導する側にとっても大変うれしい事です。しかし、自分の指導方法が必ずしも正しいとは言えないため、それなりに改善していくために考えなくてはなりません。そのおかげで指導の難しさと、今までと違った指導方法やそれを適切に子供に伝える事を考えさせられました。日常生活の中では考えない事を、子供達を通してさまざまな考えがあるというのを教えてもらいました。指導するにあたって叱る事も必要ですが、今子供がどう感じているかを考えて、適切に対処していく事が大切ではないかと思っています。明確な目標を持たせ、何事にもチャレンジしていきたいと思っています。

私が所属しています鶴岡体操スポーツ少年団は、指導・運営すべて女性だけのスタッフからスタート



指導者 早坂裕子

鶴岡体操スポーツ少年団

した少年団です。そのせいか自身、女性だからという意識がありません。今回のテーマで、改めてじっくり見つめ直す機会を与えていただきました。

昨年の八月、日中青少年スポーツ団員交流の指導者として、南京市、無錫市を訪問して来ました。中学生といえども個人差が大きく、いろいろな出来事がありました。ホームシック、仲間との協調、食べ物好み、体力の調整等々。その度に感じた事は、厳しい指導者の目はもちろんですが、時には母親の目、姉の目で接しなければならぬ。そしてそれが、大変重要な事だということでした。当然の事ながら、自分の得意なスポーツでは高い能力を発揮する事はできますが、今までおそらく経験した事がないと異国での過酷なまでの

暑さで、体調の不良は目に見えて明らかでした。そんな中、病院へ運ばなければならぬ状況が、二回程ありました。顔色、呼吸の早さ、熱の放出の仕方等、また脱水症状を防ぐための水分の補給、安心でお腹にやさしい食事の手配等は、子育てを経験した分、男性よりは適切に対処できたと思います。また、女子に多かったのですが、部屋割・ホームステイの組合せは大変難しく、途中で変更が必要でした。それぞれのわがままは当然ありますが、生活環境・家庭環境の違いからくる心のズレはどうしようもなく、時には姉のように根気強く話を聞いてあげる事も必要でした。この様な体験から、持つて生まれた女性特有の気配り、気遣いは、とても大切な感性です。

男性だから、女性だからということではなく、お互いの長所を出し合い、うまくバランスを取っていく事が必要なのではないかと強く感じました。

今回の経験を今後の指導に役立てていきたいと思っています。



今回の経験を今後の指導に役立てていきたいと思っています。



友好交流 日独同時 交流受入

受入実行委員会事務局

新藤 伸 之

「ドイツ団がやって来る。」平成五年度に受入事業を実施してから八年ぶりに西置賜地区で受け入れを実施しました。

期待と不安が入り交じる中、長井市置賜生涯学習プラザでの歓迎式、「グーテンターク」福島県での活動の疲れも見せず、笑顔で接してくれた姿に、それまでの不安や心配も吹き飛んでいきました。白鷹町での和紙人形づくりでは、おぼつかない手つきながらも真剣に取り組み、個性豊かな和紙人形が完成していました。また、グラウンドゴルフ交流や、飯豊少年自然の家での宿泊・体験活動、小国町での海水浴交流（瀬波海水浴場）では、西置賜地区で活躍している各スポーツ団員や地元高校生が数多く参加してくれました。最初の頃はお互い照れ臭そうに接していましたが、活動を重ねていくことに言葉の壁も何のその!!積極的に交流している様子でした。デイスカッションでは、お互いの生活習慣の違いを予定した時間を超えて論議しました。追跡ハイキングで

は、制限時間までにゴール地点に戻ってこないグループを探しに行ったり、野外炊飯では、はりきり過ぎてケガをしてしまったサンドラなど、ハラハラドキドキの場面もありましたが、皆の人氣者、身長二メートルのダニエルを中心に、いつも和やかな雰囲気毎日楽しく交流することができました。活動を通し、参加してくれた西置賜地区の高校生も、小学生や中学生の団員の面倒を見てくれたりと、同じ地区内での交流も深まったよい機会だったと思います。キャンプファイヤーや海水浴交流では、交流者全員でアイディアを出し合い活動するなど、ドイツ団員と西置賜地区内の児童、生徒達の発想やパワーには、我々指導者が学ぶべき点多かったと感心しました。涙がこぼれたさよならパーティーや歓送会。週間を通して活動した仲間や、ホストファミリーとの写真撮影やプレゼント交換、抱き合って別れを惜しむ姿を見て、日独両国交流の懸け橋としての目的を達成できたのではないかと思います。今回の交流が西置賜地区ならびに山形県内の活動にも役立つことを期待したいと思います。



友好交流 日独同時 交流派遣

派遣団員 三瓶 由美子

二十一世紀最初の年に、日独スポーツ少年団同時交流に参加できたことは、私にとって生涯忘れられない体験になりました。二十四日間が本当に短く感じるぐらい、ドイツでの生活は楽しく、また充実していました。ホームステイでドイツの家庭の中に入り、家族の一員として生活していく中で、ドイツの文化や生活習慣を知るだけでなく、日本との違いを実際に肌で感じとり、私達日本人が忘れかけている良き習慣がドイツの家庭にはまだきちんと

と受け継がれていることを感じることができました。また、日本とドイツのスポーツに対する考え方の違いがあることもわかり、改めてスポーツは人が生活していくために、欠くことのできない大切なものであると実感しました。同年代の若者とのデイスカッションやスポーツ交流で体験したことは、今後の学校生活や社会生活、スポーツ少年団活動において良い影響を与えてくれると思っています。最後になりましたが、大変貴重な体験をする機会を与えて下さったスポーツ少年団関係者の皆さん、そしてドイツスポーツユースの皆さんに心から感謝します。



友好交流 日中青少年 スポーツ団員 交流派遣

副団長 村田 久 恵

日本スポーツ少年団と中華全国体育總會との青少年交流の事業として、隔年ごとに双方で派遣・受



入れが行われています。昨年は日本で受入れを行い、地方プログラム四日間を鶴岡市で引き受けました。今年度は八月四日から十日までの七日間、

日本体育協会の岡崎事務局長を団長として、団員は東北ブロックからの中学生二十九名(県内十五名)と指導者九名(通訳含)で訪問し、交流してきました。

交流先は、昨年来日した南京市と無錫市の二つのまちで、昨年交流した指導者が受入れの中心となってくれ大変有意義なものでした。

昨年来日した三つの中学校の訪問交流が中心でしたが、ホームステイやスポーツ交流、文化交流、その中でも、同じ中学生が披露してくれた、武術や中国古来の楽器演奏、社交ダンスなどの迫力に感動しながら、日本からも負けず、剣道の型や踊りを披露してきました。

言葉が通じなくとも、心と心の交流ができたことを牛かし、新しい時代を切り開くことを期待したい。

第二十一回 東北ブロック柔道交流大会

県事務局 菊池 敏宏

去る十一月二十四日(土)〜二十五日(日)山形県体育館において第二十一回東北ブロックスポーツ少年団柔道交流大会が開催されました。東北各県から小・中学生男女各八チーム計三十二チーム二二四名の選手・監督が参加しました。

一日目は交流会ということで各団の自己紹介と山形西小の「けやき太鼓」の演奏で歓迎しました。

二日目は開会式の後団体戦の予選リーグを行い、小学男子の洗心館高橋柔道スポ少と、中学男子の川西柔道スポ少が決勝トーナメントに進出し、洗心館高橋柔道スポ少が地元開催の意地を見せ県勢初の優勝を成し遂げました。

出場した

選手・監督

の皆さんの

健闘を称え

るとともに、

開催にご尽

力いただいた

た関係者の

皆様に感謝

申しあげま



第三十七回 県スポーツ少年大会

庄内支部事務局 土門 昌弘

好天にも恵まれ、山形県海浜青年の家(遊佐町)を会場に、県内各地より小学五・六年生七十五名の団員が参加して開催されました。初めは緊張したようですが、時間が経つにつれ会話が少しずつ増え、仲間意識をもつて活動へ意欲的に参加して行きました。

今大会のメイン活動になる庄内

浜でのカヌー活動は、遠浅で海も

凪の状態であり、最高のコンディ

ションの中で活動することができ

ました。さすがスポーツを日常実

践している子供たちは、短時間で

操作を覚え、お互いに協力しなが

らカヌーを楽しむことができたこ

とは、とてもよい経験となったよ

うです。「交流ゲーム」「ポーンフ

ィヤー」等の観察「野外炊飯」

など、団員にとつてすべて思い出

深いものになったようです。

活動の影には、リーダーの指導力

の大きさが強く感じられました。「ス

ポーツ少年団には、こんな活動もあ

るんだ。」と感

じるところが

あり、団員か

らやがて次を

担うリーダー

の育成を考え

る中で、リー

ダーの姿に直

接触られたことは、団員にとつて

も我々にとつても、これからのス

ポーツ少年団活動を支えていく上で、

大きな指針となったところです。

ジュニア・リーダー

スクール

北村山支部事務局 高山 智

期 日 平成十三年
八月十六日(木)〜
八月十八日(土)

●会場 神室少年自然の家

●参加者 三十五名

参加した中学生で一番印象深

かった活動は、何といつても『激

流下り』だったようです。十mも

の深さがある所や、はしごをかけ

て下らなければならぬ大きな岩

場もある約二時間の活動でした。

また、様々な方々からご協力頂

きました。なかも県リーダー

会には班の指導者として実質的に

活動頂きました。県内各地の各団

に、このようなリーダーが育つて

くれれば

な一と感

じたこ

ろです。

そして

今回の研

修会で三

十五名の

ジュニア・

リーダー

が誕生し

ました。

地域交流促進事業

高島町スポーツ少年団本部長

平 昭 男

去る一月二十七日(日)高島町営

体育館において、東南置賜支部ス

ポーツ少年団ビーチボール交流大

会を団員二〇〇名の参加をえて盛

大に開催することが出来ました。

ビーチボールは初めてという団

員もおりましたが、体育指導委員の

懇切丁寧な指導のもと、十六チー

ムを四つのブロックに別け、トーナ

メント方式・総当たりで終始和やかに

試合を進めることが出来ました。

団員たちは、いたってリラックス

スして試合にのぞんでおりました

が、それに比べて、指導員、保護

者のみなさんは、熱気のある応援

にはびっくりさせられました。

市町村の動き

大江町

大江町では、九団体が六つの競技に汗を流しています。どの単位にも、定期的な活動の他に広域的な大会を開催するなど、積極的な活動を行っています。

特に剣道競技では、今年の全国高校選抜大会を含め、六度の日本一に輝いている県立左沢高校剣道部と、町立大江中学校剣道部との冬期合同練習会も開催されています。高校生や中学生に交じった練習は、子供達に貴重な経験と、身近な目標をあたえてくれています。

また、バスケットボール競技やサッカー競技では、他市町村のスポーツ少年団を招いて毎年大会を開催しています。多くの参加者が集まるこのような大会は、子供達の体力・能力の向上はもとより、スポーツ少年団員の相互交流も図られています。

その他、モンテディオ山形の都修一コチを招いたサッカー教室の開催や、全単位参加の交歓大会の開催など、町独自の事業も行っています。

これから大江町では、各団の要望や課題に応えながら、地域のスポーツ少年団として各団が発展していき、協力していきたいと考えています。



団員の

夢



ふじかけ
スポーツ少年団
佐藤みなみ

バドミントンへの夢

私がふじかけバドミントンに入部したのは、五年生になってすぐでした。

以前は背が小さく、体力もなかったのですが、バドミントンの練習を通して、いつのまにか背丈もぐんと伸び、持久力にも自信がついてきました。

バドミントンで大切なのは、試合に勝つこともそうですが、日々のトレーニングを欠かさないことです。相手の打球にねばり強く食らいついたり、決して打ち返されないようにスマッシュを決めるためには、根気強く練習することが一番大切だと思います。そんな私の夢は、もっとバドミントンの技をみがき、百発百中の

コントロール、高く大きく力強い打球力を身につけて、誰にも負けないプレイヤーになることです。

バドミントンを続けてきて、私はたくさんのお友だちと練習して、それらのことを十分に生かして、もっともっと素晴らしいプレイヤーができるように、がんばっていきたいと思います。



中山卓球
スポーツ少年団
高橋 成美

私の夢

私の夢は、立派な卓球選手になることです。

スポーツは、四年生から入りました。入ったきっかけは、お母さんにすすめられて入りました。一度やってみたらおもしろく、うまくできるようになりまし。そして四年生の時、敢闘賞をいただきました。その時は、すごくうれしかったです。

たです。

五年生になり、全試合出ましたが、一勝か二勝くらいしか勝てませんでした。でも、スポーツの中で一位を決める大会で一位をとりました。とてもうれしかったです。

六年生に入って、友達が三人やめました。ちよつとさびしいけど新しい友達もいっぱいふえました。そして六年生になってからは、団体戦と個人戦に出て勝ち、県大会に行きました。でも個人戦は三回戦まで進むことができたが、団体戦は全部負けてしまいました。

私は、このことを思い出に、中学・高校と卓球をつづけていき、できれば立派な卓球選手になりたいと思います。



朝日卓球
スポーツ少年団
阿部 智恵

卓球への夢

わたしは、体を動かすのが好きで、何かスポーツをやりたいと思っています。

何がいいか迷ったのですが、お母さんが卓球を始めたので影響されて始めました。最初は、何もわからないまま試合に出て負けてばかりで、練習をしようと思ったけど、練習をしているうちに

に試合で勝てるようになり、卓球がだんだん好きになってきました。

そしてわたしの卓球への夢は、あいちちゃんみたいな全国でいつも勝てるような強い人になりたいです。それで大人になっても卓球を続けて、あいちちゃんと戦ってみたいし、あいちちゃんよりも強くなりたいです。

あと、コーチからも勝てるような強い人になり、わたしがコーチになりたいです。



大石田柔道
スポーツ少年団
阿部 翔太

ぼくが柔道を始めたのは、二年生の時です。きっかけは、お父さんとおじいちゃんが昔、柔道をやっていたので、ぼくも興味があったからです。

兄も弟も柔道をやっていて、我が家は柔道一家です。

初めてスポーツの練習に行った時、投げられると痛そうだなあと、とても不安になりました。でも、先生が準備運動の時から、受け身の仕方をやさしく教えてくれたので安心して練習ができました。

ぼくには大きな悩みがありました。ぼくは前から体が小さく、今年も六年生なのに体重が三十三キロもなく、なかなか増えないのです。ほとんどの対戦相手は、ぼくより

体が大きいので、にげ腰になってしまい、柔道に向かないのかなあと悩んでいました。

そんなある日、山辺での試合で、ぼくと同じくらい体の人が、大きい相手から切れのいい技で勝ち進んでいるのを見てびっくりしました。ぼくは、体が小さければ小さいの技をみがいてがんばろうと思いました。

今では、キャプテンとして優勝という目標を持ってがんばっています。これからも、先生にいろんな技を覚えてもらい、目標が達成できるように練習していきます。



金山スポ少
バレー部
三浦あかね

私は、三年生の時に姉が入っていたバレー部に入部しました。バレーボールをしている選手が、とてもカッコ良く見えたのと、私もやってみたくて強く思ったからでした。

最初はボール拾いや、ボール渡しかかりでなかなかバスの練習ができず、家に帰って姉や母に教えてもらったこともありまし。少しずつアンダー、オーバーなどのパスができるようになると、練習がとても楽しくなりました。特に、初めてサー

ブが成功した時は、うれしくてしかたがありませんでした。

六年生になって、キャプテンという大役をもらいました。みんなをまとめていかななくてはならないという責任感と、これまで以上に頑張っていこうという気持ちが出てきました。

バレーボールは、チームワークが大切なスポーツです。協力し、お互いに思いやる事ができるチームを作っていけるように努力したいです。そしてみんなが力を合わせ、良いプレーができれば最高です。

最後に、教えてくださった監督コーチ、当番で来てくださったお父さんお母さん方のおかげで、自分達が練習できる事に感謝し、残り少ない大会を精一杯頑張りたいと思います。



三川町バレーボール少年団
スポーツ少年団
折原 逸平

ぼくは、三年生の時に上級生からバスケット部へ入らないかと言われて入りました。あのころは、バスケット部に入ってみようかなあと思っていました。

入部したころは、一勝もできませんでした。でも、六年生になるとたくさん

人が入部してくれました。おかげで大会でも勝てるようになりました。

でも、ぼくたちはまだ一度も決勝リーグに出たことはありません。だから決勝リーグに出ることが目標です。でも、ぼくは東北大会・全国大会にも出場したいです。まだ冬季大会が残っています。冬季大会に向けてきびしい練習をしています。コーチにはよくおこられますが、言われたことをちゃんと守っていきたくてです。

今はキャプテンです。思っていたよりもプレッシャーはとてまきく、チームのみんなをうまくまとめられるか心配でしたが、同じ六年生の協力もあって、ここまでやってこられました。

ぼくがここまでバスケットをやったのは、チームの協力と、シュートを入れた時のうれしさです。これからもみんなと協力して、楽しくやっていきたいです。



地見興屋
今井 梓

私達、地見興屋小学校のスポーツ少年団が県大会にいけるということで、ますます練習に力が入っています。

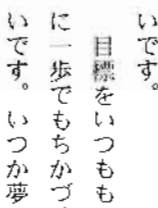
県大会出場は約二十年ぶりで、

私達にとって初めての出場となりました。

試合では、どんなチームかわからず、自分達のよさが発揮できませんでした。だから試合に勝つこともできず、行くたびにぐちゃぐちゃい思いをしました。県大会では、一勝もできないのかと思うこともありましたが、でもそんなとき、声をかけてくれたチームメイトがいて、私はもう一度やってみようという気持ちになりました。

そして、二回目の県大会で一勝をあげることができました。これからまた、県大会につながる試合があります。今まで以上に練習に集中して、もっと地見小のよさが出るプレーをめざしていきたいです。

それと、チームメイトとのコミュニケーションもわすれないようにみんな力を合わせ、大きな勝利を手にするようにがんばりたいです。



小松野球ラグビー少年団
紺野 大地

目標をいつももって、その目標に一歩でもちかづけるようにしています。いつか夢をつかむまで!!

ぼくは、小さいころから野球が

大好きで、お父さんが休みの日があれば、よくゴムボールを打っていました。ぼくは、巨人軍のファンで、その中でも特に、松井選手が好きです。プレーヤーとしては、イチロー選手のようにするのが夢です。

ぼくは、四年生の時にスポーツ少年団に入団しました。しかし、結成したてのぼくたちにとって、一勝するのはとてもむずかしいことでした。いくら練習しても何年もの差があるので、おいつくことができませんでした。試合前の二週間は、毎朝野球の練習があるので、学校でねむいときもありました。しかし、六回くらいは試合で先発のピッチャーが○点におさえたので、相手は点数が入らず、ぼくたちのチームはたくさん打たので、ついに一勝することができました。今年は、結果的に一回しか勝てませんでしたが、ぼくたちにとってはうれしい一勝でした。

今は冬ですが屋内グラウンドでみんな練習しています。春からの試合では、全部勝ちたいです。ぼくも、イチロー選手のようなスーパースターになりたいです。いつか大リーガーになりたいです。

単位紹介

洗心館高橋柔道スポーツ少年団
(天童市)
指導者 塩野 慎三

私達の柔道場は、ピニールハウスの道場で、父兄が協力して作った手造り道場で、畳も各方面から古い畳を戴いたものです。私達は日本一の柔道場と思っています。私は道場の善し悪しは建物で決まるものではなく、柔道をやりたい子供に子供を支えてくれる保護者、柔道を指導する人が居れば十分だと思っています。

現在の洗心館員は小学生十六名と中学生六名の少人数です。練習日は、火・木・土の週三回ですが、大会前は集中練習もします。私達の道場ではほとんど乱取り練習をしていないのが大きな特徴です。今年の洗心館の成績は素晴らしいもので、県スポ少大会、東北少年柔道大会(東北六県七八チーム出場)、三船十段杯(東北各地から出場)、岩手県久慈市)等で優勝し、全国大



会にも二回出場した。

私達指導者は、子供達に、「勉強しないで良い点数はとれない」「練習しないで強くなることはない」と文武両道を教えています。私達自身も、子供達や保護者より真面目に、を合言葉に頑張っています。日本のビニールハウス道場には是非、お立ち寄りください。

杉の子卓球スポーツ少年団 (山辺町)

代表指導者 峯田 忍

杉の子卓球スポーツ少年団は、山辺町立鳥海小学校の三年生から六年生までを対象に、昭和六十一年に発足し、今年で十六年目を迎えました。現在男子八名、女子三名、指導者二名という少人数で活動を行っています。

活動内容は、週二回。月曜日と水曜日の午後七時から九時までの二時間の練習と各種大会への参加。焼肉、花火大会、送別会、練習日でのドッチボール、バドミントンといった違う種目での体力づくりなど、卓球以外の事も行っています。これまでの大会では、特に目立った活躍はなかったのですが、八



月十九日に行われた少年少女卓球競技大会地区予選で、スポーツ少年団発足以来初の男子団体優勝を手に入れました。

スポーツ少年団に入っていた子供達も成長し、時間がある時は練習に来て指導してくれたりしています。

最後に、スポーツ少年団を通じて団員の心身の育成はもちろん、大会等を通じて他のチームとの友達を作る事も大切な事として、また中学・高校・社会人となってからも卓球を続けてほしいと願っています。

朝日卓球スポーツ少年団 (朝日町)

代表指導者 阿部 哲

リンゴの町で卓球をしている小さなスポーツ少年団が私たちです。なぜ「小さな」といいますか、団員構成が五年生一人、三年生六人、一年生二人、そして保育園児一人と低年齢化と少人数(男五人、女六人)である、また七家族で運営している団体であるからです。現在のところ団体戦の試合には人手を借れないと参加できない状態にあります。

少年団の歴史は古く二十年前位から続いています。非常に盛んな時期もあり、各種大会で活躍したこともありました。

現在は低学年

主体ということもあり、楽しむスポーツ団体としての活動を行っています。夏のバーベキュー、

秋の芋煮会等は家族的な雰囲気の中で行えるので、とても良いところがあります。卓球の競技として見れば、今のところサーブが入って喜び、サーブを返しては喜ぶという状態ですが、いつかは自分でポイントをとれるようになり、試合でも勝ちたいという気持ちは皆が持っています。また、これからは両親にいても一緒に練習することとなり、親子で楽しむ卓球にできたらいいなあと思っています。

村山河西柔道スポーツ少年団 (村山市)

代表指導者 片桐 善策

本団は平成五年に発足し、将来は中学校統合を視野に入れて、団名を「村山河西柔道スポーツ少年団」としました。団員七名、指導者三名、稽古場所は二十畳の私の納屋でのスタートでした。

現在は、小学生十七名、中学生八名、総勢二十五名が毎週火・金曜の夜、村山武道館で稽古しており、他団への遠征も積極的に行っ



ています。

攻めに徹する柔道を目差し、試合では勝っても負けでも全力を出し切ることに心がけており、

その精神を一人ひとり感じているのか、団が発足してから現在まで、教育的指導を受けたことがほとんどありません。各種大会では、小学生の市・郡大会の入賞は勿論、中学生が今年度は郡大会で二名の優勝、県大会三位、東北大会二位と好結果を残しました。(葉山中に柔道部なし)

このような結果が残せるのも、父母の会のおかげだと思っています。近年、父母が意欲的に柔道着を着て、昇段試験、認定員に挑戦してくれる事が特に心強く思っています。今後も、団員・指導者・父母の会が一体となり、県大会・全国大会を目差すとともに、団を卒業した者が、将来、指導者となることにも期待しています。

昭和四十九年に町の教育委員会に社会教育主事が県から派遣され、

八幡ミニバスケットボールスポーツ少年団 (八幡町)

指導者 佐藤 義道



一般のバスケットボールクラブと話し合い、子供達のバスケットボール活動が普及しました。当時は、教室から始まり昭和五十二年に団活動として発足しました。小学校、中学校、一般と一貫した体制ができあがり、三つのチームが同じ年度で県大会を優勝したこともありました。地域社会、学校、家庭と色んな意味ですばらしい環境条件がそろった時代でもありません。

現在、子供達も少子化時代といわれ、小学生三年生から六年生までを合わせ男子十七名、女子十八名で週三回の活動をしています。

バスケットボールというスポーツは、基本であるパス、ドリブル、シュートを集団の中での確に判断し、決断し、「勇気」を持って瞬間的に行動するスポーツです。今で言う「生きる力」というべき、「判断力」「決断力」「行動力」という自分の「力」が身につくすばらしいスポーツだと思います。

「力」をより効果的に発揮できるように「勇気」が湧き出るような活動を子供達と一緒に頑張っています。



藤島バレエボール
スポーツ少年団(藤島町)

代表指導者 石川 弘

藤島バレエボールスポーツ少年団は、昭和六十三年に藤島町のバレエボール協会が主体となり、底辺の拡大とバレエの楽しさを子供たちに伝えるために発足したのが始まりでした。

近年は、少子化と競技スポーツ離れが著しく、団員数が減少してきたため、今年から三年生からの募集とし、現在は団員数二十三名、指導者七名で活動しています。

活動内容としては、週三回、月・水・金の夜七時から八時半までの練習と各種大会への参加となっています。年間の大会数も多く、一年間休む間もない忙しさとなっており、試合のための練習に追われる毎日です。

そのため、指導する方もバレエボールを楽しむこと、勝つ喜びとの狭間に立って右往左往の日々が続いています。

練習の苦しさ、チームワークの大切さを通して、他人を思いやる



心を育んでもらいたいと思い、活動を行っているところです。

バレエボールの楽しさを早く知ってもらい、卒業後もバレエボールを続けてくれること、そして将来は指導者として帰ってきてくれることを願っています。

富沢スポーツ少年団(最上町)

指導者 奥山 恒

富沢スポーツ少年団は、昭和五十八年に結成。富沢小学校の三年生から六年生までの児童を対象に活動しています。

結成当初から、夏季は陸上を中心とした体力づくり、冬季はクロスカントリースキーで各種大会に参加、好成績を残してきました。これまでにオリンピック選手や国体選手を多数輩出しています。

現在、指導員は十九名体制で、冬までの基礎体力づくりと、男子はサッカー、女子はミニバスケットの大会に参加しながら、クロスカントリースキーに汗を流しています。近年、地元中学のスキー部員が減少しており、中学以降も長く続けられる選手づくりを目指し指導にあたっています。

九月末、第九回を迎えた町・ブラジル・サンパウロサッカーチームとの国際交流が行われ、観審試

合も実施されました。また、期間中ホームステイを当団が受け入れ、七家庭に十六名寝食を共にし、親睦を深めることができました。

富沢スポーツ少年団の楽しさ、仲間づくりを重視し、毎年秋田県での海浜キャンプと蔵王へのスキーツアーを実施し、「スポーツ大好き」の団員づくりに努めています。



米沢南部キッカーズサッカー
スポーツ少年団(米沢市)

代表 大戸 義

米沢南部キッカーズは、米沢市立南部小学校の児童で結成したチームで、昭和五十四年にスポーツ少年団に加盟し、サッカー活動を行っています。多い時には百名を超える団員がいたこともありましたが、今年度は他の小学校からの団員も含め約十名(女子四名を含む)で活躍しています。米沢地区で行われる各種大会、県大会に参加、さらに県内外のスポーツ少年団との交流試合、またはその地区の大会に積極的に参加しています。

冬期間は、体育館で練習して

ますが、小学生だけでなく、キッカーズOBの中学生も参加しています。同じ体育館で小学生と中学



生が一緒に練習する環境は、お互いに刺激があり、時には中学生が小学生を指導する場面もあり和気あいあいとやっております。平成十四年度からは、将来的に多種目・多世代で楽しむスポーツ環境を目指すために、今の少年団をサッカー部門のジュニアに位置づけ「アピカ米沢スポーツクラブ」という(総合型地域スポーツクラブ)を立ち上げます。スポーツ少年団には引き続き加盟し、まちづくり、子供の育成も意識した活動を行うためNPO(非営利組織)法人化を申請中です。

長井エルザ野球スポーツ少年団(長井市) 代表指導者 溝口 健一

長井市内に野球のスポーツ少年団を作ってほしいという声が年々高まっていた昭和五十四年、野球の大好きな長井小五年生十三名で少年野球チームを結成(リトルエ

ルザ)としてスタートしました。その当市市内に少年野球チームはなく、ユニホーム姿の子供達は注目のま



した。昭和五十七年米沢市野球連盟に公式登録し、本格的に活動を開始いたしました。各種大会に出場し、徐々に力をつけ米沢地区でも「エルザ」の名がしだいに広まっていたようです。昭和五十八年四月スポーツ少年団として結成、名称も「長井エルザ野球スポーツ少年団」として長井市スポーツ少年団に登録、団員三十名でスタート、野球熱も高く、たのしい団員が続々入団し、めきめき力をつけて参りました。昭和六十一年、ようやく育成会組織が発足し、団と育成会、体となってさらに強力な活動が開始されました。平成八年、学童軟式野球山形県大会で優勝。待望の全国大会出場をはたしました。今後、エルザの伝統、「忍耐」と「根性」が未長く引き継がれることを念願し前進していきたいと思っています。

学習コーナー

少年期の ——スポーツ指導について

山形大学医学部整形外科 武井 寛

一 少年期スポーツの目的

スポーツ少年団の究極の目的は「人間づくり」にある、と言われていきます。それでは最も効率的にその目的を達成するにはどのような方法がよいのでしょうか？以前私は家族とともにアメリカ合衆国で暮らし、その合理的な考え方に驚いた経験がありますが、様々な種目の少年スポーツクラブのパンフレットには少年期スポーツの目的として必ず以下の四つのキーワードが記されています。①楽しむ。楽しくエネルギーを発散し、爽快

感とともに生きている喜びを味わうことです。②競、訓練。その競技やチームのルールを守ることに

よって、またチームという集団の中で行動することによって躰られ、

社会性を身につけることです。③自分自身に対する自信。努力しそれが結果となって現れた時の達成

感を得ること、またチームにおける自分の役割、必要性を認識することなどを通して、子供達に自信を

持たせることです。④才能の早期発見。その子供が持ついろいろな才能を、多くのスポーツをさせる

ことによってなるべく早く発見し、合理的にのびしていくことです。

そのために、異なった個々の能力がそれぞれ尊重され、人と人は同じではない、同じである必要は全

くない、という考えが浸透してきます。以上四つのキーワードから、

スポーツを楽しむ、その中で社会性を身につけ、自分も他人も大事にし、思慮深く、チャレンジ精神

に富んだ人間をなるべく効率よく育てようというスポーツ・経済両

面の大国アメリカの姿勢が伺えます。これら四つのキーワードは、

日本における「人間づくり」にそのまま当てはまるものと思います。

ここで大事なことはこれらのキーワードを実現させるためには指導

者の役割が大変重要だということです。

者としての役割が大変重要だということです。

二 指導者（親・教師・コーチ）の役割と問題点

では実際少年達を指導する指導者達は何を目的に指導をし、ある

いはスポーツ少年団活動に協力しているのでしょうか。私は以下の

四点と考えます。①子供達の健全で合理的な育成。先に述べた四つ

のキーワードを実現させることです。②自身の体力維持、ストレス

解消。自分の楽しみも大事なことです。③地域社会とのコミュニ

ケーション。そのスポーツを通して普段つきあうことの無い人たち

と交流できます。④指導理念・理論の実践。指導者の信じる指導法

を実際に行うことです。この指導法が①を実現させるためであるの

ならばまことに結構なことですが、時に問題が生じます。スポーツに

よって差はありますが、アスリートとしてのピークは二十歳代です。

少年期の指導は今勝つために無理をさせる指導より、次につなげる

ための指導という立場に立つべきです。また子供達が一人ずつ違う

ものであるならば、それぞれの子供の特性や目的にあった指導があるべきです。怪我をして病院に来



写真一 15歳男性 投球過多が原因の上腕骨離断性骨軟骨炎。上腕骨の関節面の骨・軟骨が壊死に陥っている(矢印)。ピッチャーへは復帰できなかった。

る子供達は必ず「いつから試合に出られるでしょうか？」と聞いてきます。あるいはそう聞いてこいと言われている。本人も指導者達もなんて近視眼的なんだろう、と思うことがままあります。「人間づくり」という少年スポーツ本来の目的とスポーツ現場の目的が食い違っている場合があることに気が付かれます。指導者の理念と言う名の功名心に子供が使われるとでも言いたくなるようなケースも時に現れます(写真一)。

三 指導者が心がけるべきこと

少年スポーツの指導者の本来あるべき目的は次の試合で勝つことではなく、子供達がそのス

ポーツを続け、更にはそのスポーツが文化として根ざすこと、最終的にはそのスポーツによって子供達が、また子供達がその後ろ姿をみて育っていく指導者、つまり大人の「人間づくり」もが達成できると考えますが如何でしょうか。そのためには指導者が常に科学的な根拠のある知識を吸収し、選手に対する長期的な視野を、また指導法に柔軟な発想を持ち、自身の指導法を検証していくことが必要だと思います。スポーツを通して、地域の中で大人たちと子供たちが触れあい、影響しあい、子供も大人も成長していく。これが少年期スポーツのあるべき目的と考えます。

県の動き

表彰

社会体育優良団体文部科学大臣表彰
二井宿スポーツ少年団(高島町)
日本スポーツ少年団顕彰受賞者(団)
◆表彰市町村スポーツ少年団
真室川町スポーツ少年団
◆表彰指導者
木村義博(上市市)・奥山金助(新庄市)・大渡朝生(米沢市)・村田久忠(鶴岡市)
山形県スポーツ少年団表彰

◆功労者
今野智夫(山形市)・齋藤武司(上市市)・鈴木隆一(朝日町)・奥山保雄(東根市)・安彦隆一(新庄市)・市川進(高島町)・手塚辰弥(長井市)・佐久間忠勝(鶴岡市)・渋谷幸一(朝日村)・新館篤(松山町)
◆優良団
山四小いちよう野球クラブ
スポーツ少年団(山形市)・山口剣道場津山スポーツ少年団(天童市)・陵武会柔道スポーツ少年団(寒河江市)・神町下スポーツ少年団(東根市)・新庄市空手道スポーツ少年団(新庄市)・二

平成13年度
山形県スポーツ少年団登録状況

平成14年2月1日現在

単位団体(団)	更新			新規			計			指導者			計
	更新	新規	計	男	女	計	男			女			
							更新	新規	計	更新	新規	計	
総数	990	30	1,020	15,930	8,916	24,846	4,153	729	4,882	371	107	478	5,360
東端山支部	246	12	258	3,818	1,668	5,486	805	150	955	77	28	105	1,060
山形市	152	8	160	2,343	1,016	3,359	459	87	546	46	19	65	641
上市市	25	1	26	381	226	607	78	10	88	12	1	13	101
天童市	47	3	50	756	266	1,022	142	41	183	14	6	20	203
山辺町	16	0	16	156	102	258	49	6	55	3	1	4	59
中山町	6	0	6	182	58	240	47	6	53	2	1	3	56
西村山支部	75	0	75	1,161	582	1,743	295	49	344	22	4	26	370
寒河江市	29	0	29	535	223	758	130	34	164	8	3	11	175
河北町	19	0	19	293	157	450	87	7	94	8	1	9	103
西川町	6	0	6	86	76	162	16	3	19	2	0	2	21
朝日町	12	0	12	141	77	218	33	2	35	2	0	2	37
大江町	9	0	9	106	49	155	29	3	32	2	0	2	34
北村山支部	104	7	111	1,798	1,002	2,800	480	110	590	37	8	45	635
村山市	29	3	32	550	210	760	122	20	142	8	2	10	152
東根市	39	4	43	644	370	1,014	133	53	186	19	2	21	207
尾花沢市	28	0	28	456	359	815	182	28	210	6	4	10	220
大石田町	8	0	8	148	63	211	43	9	52	4	0	4	56
最上支部	83	3	86	1,486	1,014	2,500	422	133	555	22	10	32	587
新庄市	30	1	31	541	356	897	113	38	151	5	2	7	158
金山町	6	0	6	184	120	304	61	28	89	4	1	5	94
最上町	15	1	16	234	146	380	81	18	99	5	1	6	105
舟形町	4	0	4	126	92	218	51	21	72	3	0	3	78
真室川町	10	0	10	170	81	251	40	9	49	3	2	5	54
大蔵町	4	0	4	54	57	111	17	0	17	0	0	0	17
鮭川村	9	0	9	87	78	165	31	6	37	1	2	3	40
戸沢村	5	1	6	90	84	174	25	13	38	1	2	3	41
鮎川支部	107	1	108	1,907	1,033	2,940	556	62	618	74	11	85	703
米沢市	49	1	50	872	432	1,304	230	20	250	34	6	40	290
南陽市	26	0	26	492	252	744	127	19	146	18	4	22	168
高島町	14	0	14	254	162	416	82	13	95	11	0	11	106
川西町	18	0	18	289	187	476	117	10	127	11	1	12	139
西置賜支部	78	2	80	1,222	678	1,900	382	57	439	37	7	44	483
長井市	24	1	25	460	262	722	113	11	124	20	1	21	145
小国町	11	0	11	164	91	255	68	11	79	5	2	7	86
白鷹町	31	1	32	484	245	729	160	31	191	11	2	13	204
飯豊町	12	0	12	114	80	194	41	4	45	1	2	3	48
庄内支部	297	5	302	4,538	2,939	7,477	1,213	168	1,381	102	39	141	1,522
鶴岡市	96	1	97	1,448	858	2,306	339	52	391	29	12	41	432
立川町	8	0	8	94	79	173	28	10	38	2	0	2	40
余目町	17	0	17	231	147	378	48	7	55	4	1	5	60
藤島町	9	0	9	137	82	219	40	0	40	3	2	5	45
羽黒町	11	0	11	131	98	229	41	5	46	2	1	3	49
朝日村	9	0	9	179	143	322	63	4	67	7	0	7	74
鶴引町	19	0	19	261	147	408	75	9	84	13	4	17	101
三川町	10	0	10	125	92	217	51	4	55	0	1	1	56
温海町	8	1	9	111	95	206	30	6	36	2	1	3	39
酒田市	70	2	72	1,306	787	2,093	351	48	399	31	14	45	444
遊佐町	18	0	18	190	147	337	50	9	59	3	0	3	62
八幡町	9	0	9	110	91	201	27	5	32	1	0	1	33
松山町	10	0	10	127	106	233	43	8	51	2	2	4	55
平田町	3	1	4	88	67	155	27	1	28	3	1	4	32

井宿スポーツ少年団(高島町)・小国陸上スポーツ少年団(小国町)・福栄スポーツ少年団(温海町)・川スポーツ少年団(鶴岡市)・広野スポーツ少年団(酒田市)
◆認定育成員(少年スポーツ指導員)
本年度は十四名の受講希望者がありました。認定育成員は現在約七十名いますが、一市町村に最低一名が配置されるようにならなければなりません。また、認定育成員のない市町村もありますので、

来年度は是非受講してください。
◆認定員
平成十三年度は四四八名が受講修了、内認定者一八二名、二六六名が十三年度未登録のため保留。
(★認定員資格は十四年度未登録の場合、資格が消失しますので、注意下さい。)
《シニア・リーダーズスクール》
前期 八月十一日〜十四日 秋田県
後期 三月二十八日〜三十日 東京都

参加者
遠藤薫(寒河江市)・西村憲一(真室川町)・坂野翼(川西町)・高橋祐樹(同)・今野優子(同)・高橋望(同)・高橋あや(同)・芳賀透(白鷹町)・原田大(同)・高橋敦(同)・廣川由香(小国町)・五十嵐亜希子(鶴岡市)・齊藤梢(同)
《全国スポーツ少年大会》
七月二十八日〜八月一日 徳島県
指導者・玉虫由紀子(米沢市)団員 川又脩人(真室川町)・五十嵐哲也(同)・後藤理紗(川西町)・金子恵美

(同)・滝澤奈穂子(同)
東北プロテックススポーツ少年大会
八月二日〜五日 宮城県
指導者・石川武利(余目町) 団員 佐藤由美子(川西町)・嶋真芳(同) 吉田麻里(同)・吉田豊(同)・嶋貴論(同)・小林一城(同)・高橋由衣(同)・五十嵐陽平(白鷹町)・鈴木智之(同)・杉山卓也(鶴岡市)・井上哲也(同)・井上真希(同) 笹原佳奈子(同)
《指導者全国研究大会》東京都 県内より二四名の指導者が参加。

平成14年度 山形県スポーツ少年団事業計画

		事業名	期 日	会 場
種別別 交流大会関係	県内	県少年少女スポーツ交流大会	10月6日(日)	県総合運動公園他
	県外	第8回全国スポーツ少年団SHIPS交流会 全国スポーツ少年団競技別交流大会 ・サッカー (第26回) ・ホッケー (第24回) ・軟式野球 (第24回) ・卓球 (第25回) ・剣道 (第25回) 東北ブロックスポーツ少年団競技別交流大会 ・軟式野球 ・サッカー ・柔道 ・ミニバスケットボール	8月6日(火)～8月8日(木) 7月29日(月)～8月3日(土) 8月2日(金)～8月4日(日) 8月14日(水)～8月17日(土) 3月28日(金)～3月30日(日) 3月27日(木)～3月29日(土) 未定 未定 12月14日(土)～12月15日(日) 3月21日(金)～3月23日(日)	神奈川県・県立体育センター・陸上競技場 東京都・よみうりサッカー場 埼玉県・阿須運動公園ホッケー場 北海道・旭川スタールン球場他 千葉県・中台運動公園成田市体育館 山形県・鶴岡市小真木原総合体育館 山形県 宮城県 青森県・十和田市 宮城県・グランディー21
研修 関係	県内	認定員養成講習会 (8コース開催) ・西置賜会場 ・庄内(飯海)会場 ・最上会場 ・西村山会場 ・庄内(田川)会場 ・北村山会場 ・東南置賜会場 体力テスト判定員講習会 ジュニアリーダースクール 市町村スポ少・スポ安研修会 県指導者研修会 育成母集団研修会 リーダー会研修会	9月7日(土)～9月8日(日) 9月14日(土)～9月15日(日) 11月9日(土)～11月10日(日) 11月9日(土)～11月10日(日) 11月9日(土)～11月10日(日) 11月16日(土)～11月17日(日) 11月30日(土)～12月1日(日) 11月30日(土)～12月1日(日) 11月10日(日) 8月10日(土)～8月12日(月) 2月28日(金) 12月7日(土) 未定 未定	白鷹町中央公民館 酒田市武道館 最上合庁・新庄市勤労者総合福祉センター 寒河江市文化センター・市民体育館 小真木原総合体育館 大石町福祉会館・大石田一中 山形市江南公民館 高島町営体育館 新庄市勤労者総合福祉センター 東南村山支部「県青年の家」 山形県スポーツ会館 最上支部 東南村山支部//庄内支部 未定
	県外	シニアリーダースクール 認定育成員研修会 (北海道・東北地区会場) (関東地区会場) 認定育成員養成講習会 (前期) (後期) 全国リーダー連絡会 指導者全国研究大会	8月1日～7日の4泊5日 10月18日(金)～10月19日(土) 11月16日(土)～11月17日(日) 10月19日(土)～10月21日(月) 11月29日(金)～12月1日(日) 9月中旬の2日間6月30日(日) 6月30日(日)	国立中央青年の家(静岡) NTT北海道セミナーセンター 国立オリンピック記念青少年センター(東京) NTT北海道セミナーセンター 北海道立総合体育センター 国立オリンピック記念青少年センター(東京) ホテル海洋(東京)
交流 関係	県内	第38回山形県スポーツ少年大会 地域交流促進事業未定最上支部	8月2日(金)～8月4日(日) 未定	東南置賜支部「飯豊少年自然の家」 最上支部
	県外	第32回東北ブロックスポーツ少年大会 第40回全国スポーツ少年大会 第6回北海道・東北ブロックリーダー研究大会 第29回日独スポーツ少年団同時交流 (派遣) (受入) 日独青少年指導者セミナーBグループ (派遣) 日独スポーツ少年団指導者交流(受入) 日中青少年スポーツ交流指導者交流(受入) 団員交流(受入) ジュニアサイエンスクルーズ	8月8日(木)～8月11日(日) 7月28日(日)～8月1日(木) 未定 7月20日(土)～8月12日(月) 8月5日(月)～8月10日(土) 9月29日(日)～10月19日(土) 10月下旬～11月中旬 10月上旬～10月中旬 8月上旬 未定	福島県・国立若柳青年の家 三重県「鈴鹿サーキットランド」 青森県 ドイツ各地 北村山支部 ドイツ各地 四国ブロック 北信越・東海ブロック 未定 未定
会議 関係	県内	県スポーツ少年団代議員会 県スポーツ少年団本部員会 県スポーツ少年団専門委員会 県スポーツ少年団支部長・副支部長会議 県スポーツ少年団指導者協議会理事会 県スポーツ少年団表彰、日本スポーツ少年団表彰伝達式 県スポーツ少年団リーダー会総会/運営委員会	5月17日(金)/2月中旬 5月17日(金)/2月中旬 (企画・普及・活動・指導育成) 未定 未定 2月28日(金) 3月下旬	山形県スポーツ会館 山形県スポーツ会館 山形県スポーツ会館 山形県スポーツ会館 山形県スポーツ会館他 山形県スポーツ会館 未定
	県外	東北6県体育関係者会議 全国指導者協議会 日本スポーツ少年団委員総会 全国都道府県事務担当委員会 東北ブロック指導者研究協議会 北海道・東北ブロック会議	未定 6月28日(金)～6月29日(土) 6月12日(水)/未定 6月12日(水)～6月13日(木) 未定 未定	秋田県 岸記念体育館(東京) 岸記念体育館(東京) 岸記念体育館(東京) 秋田県 秋田県

スポーツ活動、文化活動、ボランティア活動等に最適な保険です。

*5名以上の団体でご加入ください。

加入区分	対象となる団体	対象となる事故の範囲	掛金 (1人年額)	傷害保険				賠償責任保険 (補償限度額)	共済見舞金
				死亡	後遺障害 (最高)	入院 (日額)	通院 (日額)		
A	・子どもの団体(中学生以下) ・文化、ボランティア活動 (高校生以上)	団体活動中と その往復中	450円	2,000万円	3,000万円	4,000円	1,500円	身体賠償 1人 1億円 1事故 5億円 (免責1,000円) 財物賠償 500万円 (免責1,000円)	突然死 (遺族も完全 無償見舞金)
B	老人クラブ団体		800円	500万円	750万円	1,800円	1,000円		
C	成人のスポーツ団体(高校生以上)		1,400円	2,000万円	3,000万円	4,000円	1,500円		
D	山岳登山 アメリカンフットボール等		9,000円	500万円	750万円	1,800円	1,000円		
AW	子どもの団体(中学生以下)	団体活動中と その往復中	1,000円	2,100万円	3,150万円	5,000円	2,000円	土曜準備に 身体・財物賠償合済 1事故 500万円 身体・財物賠償合済 1事故 500万円 (免責1,000円)	対象となりません
		団体活動中と その往復中以外		100万円	150万円	1,000円	500円		

◆対象となる事故 ○グループ活動中の事故 ○往復中の事故 ◆保険期間 平成14年4月1日午前0時より翌年3月31日午後12時まで(申込受付は3月から)

お問い合わせ

〒990-2412 山形市松山2丁目11番30号 ☎023(642)8321 電話受付時間：午前8時30分～午後5時
(土、日、祝日を除く。)

財団法人 **スポーツ安全協会山形県支部** (山形県体育協会内)